

## 令和 8 年度当初予算知事審査における主要な議論

### (農林部)

#### ■ 埼玉県 AI いちご品質向上モデル開発事業 (P11)

知 事 いちごの栽培に関する各種データと品質の相関関係について AI による解析や汎用化技術の検証を行うのは誰か。また、開発したシステムを活用するのは誰か。

担当部局 汎用化技術の検証などは農業技術研究センターにおいて実施する。開発したシステムは生産者が自らのハウスで活用する。

#### ■ 埼玉県活樹推進プロジェクト (P104)

知 事 県産木材の新たな流通体制の構築には、本県の場合、消費地に近いという立地を活かすことが重要である。例えば、木材のストックヤードを流通過程のどこに設置するのが適切かを含めて、よく検討してもらいたい。

担当部局 承知した。

# 令和 8年度予算見積調書

課室名：農業政策課  
 担当名：企画・試験研究調整担当  
 内線：4034

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
P11	埼玉県AIいちご品質向上モデル開発事業			一般会計	農林水産業費	農業費	農業研究費	農業技術研究センター費		
事業期間	令和 8年度～ 令和11年度	根拠法令	埼玉県農林水産業振興条例			針路	12 儲かる農林業の推進	SDGsゴール	2	
					分野施策	1202 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsターゲット	2-3		
1 事業概要				5 事業説明						
<p>AIを活用し、複数要因の分析によるいちごの汎用化技術の確立と、ほ場に合わせた改善提案ができるシステム開発に取り組む。これらと両輪で、必要な園芸用ハウス環境の整備とオープンイノベーションで、システムの実効性を高めることにより、品質のバラつきと高温障害を解決し、県いちごブランドの長期確立につなげる。</p> <p>ア AIによる品質特化型いちご栽培サポートシステムの開発 22,160千円                      イ 高温環境下に対応した高品質栽培モデル研究体制の構築 31,140千円</p>				<p>(1) 事業内容</p> <p>ア AIによる品質特化型いちご栽培サポートシステムの開発 22,160千円                      県内生産者の栽培に関するデータ等を収集し、AIを活用して栽培技術と品質の相関・因果関係について分析することで、高品質な「あまりん」の安定栽培につながる汎用化技術を確立し、生産者のほ場に応じた改善提案ができるシステムの開発に取り組む。                      イ 高温環境下に対応した高品質栽培モデル研究体制の構築 31,140千円                      「あまりん」の高品質、高温環境に対応した汎用化技術の確立に向けて精緻な栽培データの取得、高温下でも有効な汎用化技術の検証及び効果的な研究成果の普及・発信の拠点を、農業技術研究センター久喜試験場に整備する。</p> <p>(2) 事業計画</p> <p>ア AIによる品質特化型いちご栽培サポートシステムの開発                      AIを活用した汎用化技術の開発                      イ 高温環境下に対応した高品質栽培モデル研究体制の構築                      研究用ハウスの実施設計等</p> <p>(3) 事業効果</p> <p>いちごの栽培上の課題に対し、新技術も含めた解決手法に速やかにアクセスできることで、省力的・高品質な栽培がより安定的に実現される。                      【活動指標(アウトプット)】 AIによる品質特化型いちご栽培サポートシステムの開発                      高温環境下に対応した高品質栽培モデル研究体制の構築                      【成果指標(アウトカム)】 高糖度果実率(糖度12度以上：食味会測定)49%→75%(令和11年度)                      生産者の売上額増率20%向上(農業産出額ベース9.2億円増)(令和11年度)                      実証する転用技術の実施件数3件(令和11年度)</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況                      民間企業や大学、国・地方自治体、農業者と連携して、研究開発を実施する。</p>						
2 事業主体及び負担区分										
【内閣府】										
地域未来交付金										
(国1/2、県1/2)、(県10/10)										
3 地方財政措置の状況										
なし										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員										
(1)人件費(既存分)なし										
(2)人件費(増員分)9,500千円×2.0人=19,000千円										
(3)組織の新設・改廃 なし										
予算額		財源内訳							一般財源	前年との対比
決定額	53,300	国庫支出金						32,400	53,300	
前年額	0							0		

# 令和 8年度予算見積調書

課室名：森づくり課  
 担当名：木材利用推進・林業支援担当  
 内線：4318 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
P104	埼玉県活樹推進プロジェクト			一般会計	農林水産業費	林業費	林業振興費	木材利用拡大対策事業費		
事業期間	令和 8年度～ 令和10年度	根拠法令	森林・林業基本法、脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律			針路 分野施策	12 儲かる農林業の推進 1203 林業の生産性向上と県産木材の利用拡大	SDGsゴール SDGsターゲット	9, 12, 15 9-4, 12-8, 15-2	
1 事業概要 「伐って・使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用により森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るため、森林資源の活用や木材の利用拡大を図る「活樹」を推進する。  ア 県産木材の新たな活用促進事業 32,186千円 イ 県産木材供給体制の強化検討事業 20,000千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア 県産木材の新たな活用促進事業 32,186千円 市町村や民間事業者における活樹の取組を促進するため、社会的備蓄として活用可能な移動木造応急住宅を有る地に整備し、新たな県産木材の利用モデルとして提案・活用する。 イ 県産木材供給体制の強化検討事業 20,000千円 伐採から建築までの長いリードタイムという構造的なボトルネックを解決するため、丸太あるいは製材品をストックし、需要に応じて供給する新たな流通体制の構築に向けた実行性調査及び事業構想の立案を行う。  (2) 事業計画 ア 県産木材の新たな活用促進事業 ア) 移動木造応急住宅の整備【委託料3,000千円、工事請負費28,500千円】 イ) 県事務費【686千円】 イ 県産木材供給体制の強化検討事業 ア) 新たな流通体制の実行性調査等【委託料19,500千円】 イ) 県事務費【500千円】  (3) 事業効果 成熟期を迎えた森林を木材として活用する「活樹」が県内に広がり、県産木材の利用が進むことで、「伐って・使って、植えて、育てる」森林の循環利用を促進し、地球温暖化の防止など森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されることにより、脱炭素社会が実現する。 【活動指標(アウトプット)】移動木造応急住宅の整備、新たな流通体制の事業構想の立案 【成果指標(アウトカム)】県産木材の新たな活用モデル事例の提案 1件 需要変動に対応した木材供給の実現 住宅や新たな利用における県産木材の活用が進み、県産木材の供給量が増加						
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)										
3 地方財政措置の状況 なし										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 人件費(既存分) 9,500千円×2.0人=19,000千円 人件費(増員分) なし 組織の新設・改廃 なし										
予算額		財 源 内 訳							一般財源	前年との 対比
決定額	52,186	繰入金							0	52,186
前年額	0								0	